



第 1 7 4 号



ルリビタキ  
(山崎聖天にて)  
4班 西木 豊 撮影

発行日 令和5年1月1日  
発行元 大山崎ふるさとガイドの会(OFG)  
発行責任者 森脇 剛  
連絡先 大山崎町歴史資料館内  
TEL 075 (952) 6288, FAX 075 (952) 6289  
URL <https://www.kyoto-ofg.org/>

\*\*\*\*\*

**新年のご挨拶**



**会長 森脇 剛**

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、ご家族ともども清々しい新年をお迎えのことと存じます。

昨年は、「令和4年度・第10回大山崎ふるさと案内人養成講座」を大山崎町教育委員会のご支援・ご協力のもと、成功裏に開催することが出来ました。

会員の皆様には、会場準備や懇親会・現地学習ガイドなどに多大なご協力をいただきありがとうございました。特に養成講座実行委員会の方々には、受講生のお世話や煩雑な事務作業、学習の手引きの印刷、また講義資料集の作成などを行っていただきました。改めてお礼を申し上げます。

今回は、第10回と記念すべき養成講座となり、OFGも長い歴史を持つガイドの会となりました。会の発展に寄与されてこられた皆様方にとりましては、感慨深い養成講座であったと思います。

昨年のOFG活動を振り返りますと、来賓をお招きしない定期総会に始まり、春の定点ガイド・養成講座の開講・天下分け目の天王山ウォーキングなどの活動を行ってきました。その後、歴史講演会・秋の

定点ガイド・天王山ウォーキング等を実施し、12月末には養成講座の閉講式と多くの新入会員を迎えることができました。その陰で、小学校の天王山ガイドの申し込みは1件しかなく、申込ガイドや出前ガイドも至って低調なままでした。

過去、猛威を振るったコロナ禍は、3月末の「まん延防止等重点措置」以降、ウイズコロナ政策のもと法規制は無くなりました。しかし、新型コロナ感染症は未だ収まっておりません。第8波襲来も新聞等にており、今年のOFG新年会は中止と決定しました。

今後も、コロナのもとで如何にガイド活動を続け、広げていくかを模索しなければならないと思っています。

さらに、活動していて楽しくやりがいのあるガイドの会になりたいものです。また、兎のようにコロナ禍であっても「飛躍」・「向上」を目指し、新しいことに挑戦する元気なOFGになれるよう、祈念いたします。

皆様方にとって、この卯年が素晴らしい年であることを願い、新年のご挨拶といたします。

11月～12月の活動実績		活動予定	
1. 主なガイド	1. 主なガイド	1. 主なガイド	1. 主なガイド
・11月2日(水) 大阪府高齢者大学校 33名	・11月17日(火) 右京の里自治協議会(出前ガイド)	・11月17日(火) 右京の里自治協議会(出前ガイド)	・11月17日(火) 右京の里自治協議会(出前ガイド)
・11月22日(金) パナソニック 電工松寿会 15名	・3月25日(土) 水辺の散策2023	・3月25日(土) 水辺の散策2023	・3月25日(土) 水辺の散策2023
・11月26日(土) 阪急沿線観光歩きガイドツアー 32名	2. 行事予定	2. 行事予定	2. 行事予定
2. 会の行事など	・1月19日(木) 入会予定者学習会 1回目	・1月19日(木) 入会予定者学習会 1回目	・1月19日(木) 入会予定者学習会 1回目
・11月15日(火) ガイド学習会	・2月16日(木) 入会予定者学習会 2回目	・2月16日(木) 入会予定者学習会 2回目	・2月16日(木) 入会予定者学習会 2回目
・11月17日(木) ふるさと案内人養成講座 第6講	・3月16日(木) 入会予定者学習会 3回目	・3月16日(木) 入会予定者学習会 3回目	・3月16日(木) 入会予定者学習会 3回目
・12月21日(水) ふるさと案内人養成講座 最終講・閉講式	○アサヒビール大山崎山荘美術館 企画展	○アサヒビール大山崎山荘美術館 企画展	○アサヒビール大山崎山荘美術館 企画展
	没後40年 黒田辰秋展 一山本爲三郎コレクションより	没後40年 黒田辰秋展 一山本爲三郎コレクションより	没後40年 黒田辰秋展 一山本爲三郎コレクションより
	1月21日(土)～5月7日(日)	1月21日(土)～5月7日(日)	1月21日(土)～5月7日(日)

11-12月 ガイド実績

	一般ガイド		歴史資料館		出前ガイド		旗立松(定点)		山荘庭園(定点)		合計	
11-12月	9件	107人	84件	174人	0件	0人	96件	496人	107件	263人	296件	1,040人
4年度累計	20件	303人	286件	559人	2件	29人	405件	1,512人	269件	575人	982件	2,978人

## プロガイドによる現地学習に参加して



11月15日、琵琶湖疎水(インクライン跡)…南禅寺(三門、水路閣)…法勝寺跡…平安神宮(応天門)コースで、“らくたび”のプロガイド若村さんからガイド案内を受けました。

声のトーン良く、非常に解り易い説明でした。個々のガイド地点での説明には、新たな多くの発見がありました。例えば、琵琶湖疎水/インクライン跡での説明では、京都の今に繋がる説明、当時その建設に携わった人々の想いにも触れることがで

きました。南禅寺三門では、南禅寺の由緒、その名の由来、三門(山門)の意味等の説明を受けました。今まで以上に、南禅寺に対する理解が深まったと感じました。

若村さん曰く、ガイドの大切なこととして“感動”を挙げておられました。「ガイド説明の地点では“その地点で感じた・知った自分の感動”をお客様に伝える。そして、その説明を聞いたお客様にも感動していただく」のだと。

豊富な知識は、その支えになると思いました。有意義な現地学習研修でした。

(4班 野村輝行 記)

## ～わたし こんなん しています～

### 「歴史人口学」は…? ちょっと面白い…!!

コロナ下で暇を持て余し、それまで積読だった「歴史人口学」関係の文庫本を読むことができました。

「歴史人口学」は第2次世界大戦後にフランスで確立された若い学問で、日本では遺跡分布等の考古資料や宗門人別改帳等の文書資料と気候変動等を勘案して人口の推移を類推し、歴史を検証しています。

鬼頭宏氏の「人口から読む日本の歴史」によると縄文時代中期の人口は約26万人程度と推定され、その後の人口の急増期(以下)を経て現在に至ります。

- ① 弥生時代～奈良時代にかけて600万人に到達。  
\*寒冷化と稲作文化の伝来等で西日本中心に急増。
- ② 室町時代～江戸時代中期にかけて3,000万人に。  
\*経済の社会化(市場化)の進展で爆発的な人口増。
- ③ 明治維新～昭和にかけて1億2千万人台に…。  
\*工業化進展等で飛躍的增加。2008年以降減少!!

また、宗門人別改帳の分析では個々人の出生・婚姻・死亡と家族構成など、豊富な情報が分析・解説されており、江戸時代の人々の人生や地域の動向が理解でき面白いですよ!

(3班 加藤文則 記)

### 茶道と山登り

「稽古とは一より習ひ十を知り十よりかへるものその一」(利休百首より)

母の手ほどきを受けて一より習ったお茶の稽古は、この年齢まで続き、十を知った今も月3回、素早く着物に着替え、片道90分をマイカーで稽古場に向かう。また、正座のできない人のために、工夫をして立礼で指導をしている。そのような方々のために、裏千家十一代、玄々斎宗匠が考案された「点茶盤」が普及すればと思うが、地方の一茶人の想いなど届くはずなからう。

大切な茶道具を扱っていたその手は、次の日には、岩をつかんでいる。OFGに入会してから始めた山登り。あちこち学習山歩で、谷筋もまともに歩けなかったが、今では天王山に軽く登れ、より高くより遠くの山をめざす。そして、岩登りやインドアクライミングにもはまってしまった。夢中になれる楽しい世界に満足している。元のその一にかえる茶道と共に、あと十年は続けられそうな気がする。

(4班 和泉奈緒美 記)

### 歴史資料館企画展関連 現地学習会に参加

11月19日、「大山崎の街道と小道を歩く」と題し39名が福島館長から説明を受けた。

歴史資料館をスタートし長松院の辻子、観音寺燈籠、東黒門、大山崎瓦窯跡、離宮八幡宮、関大明神社、西観音寺閻魔堂跡、椎尾神社というコースを歩いた。

○辻子(づし):街道に直交した小路、小道、路地が多くあった。○大山崎瓦窯跡:平安京造営時、国家権力の指導の下造営されていたと推定され、2006年に国指定史跡となった。○阪急電鉄(当時新京阪):できる限り直線で施工する等エピソードを交えた話が聞けた。○離宮八幡宮:国家鎮護のため859年行教が宇佐八幡宮から祭神を勧請、「離宮八幡宮文書」(重要文化財)が多数残っており中世商業史の必読資料である。○西観音寺:746年聖武天皇勅願で行基が開基・建立。慈悲尾山寺と呼ばれ山岳寺院で天王山北西麓に立地したが、明治維新、神仏分離令、廃仏毀釈の流れの中で仏像などは近隣寺院へ転出し椎尾神社へと転身、寺院は消滅した。

長時間の歩行や説明で落伍者もなく聞き入っていたが、正直疲れしました。

(1班 奥西正明 記)

### 天王山の石仏法要に参加しました



サントリーHD(株)が天王山を整備中に独尊仏7体と二尊仏2体が新たに発見され、9体の石仏を祀るお堂も造られました。

10月4日、サントリーさんが宝積寺のご住職と院代さんを招き、更に山林業者・役場関係

者・我々OFGも参加して、手厚い法要が執り行われました。

法要後、元役場職員の林さんより経緯の説明がありました。これらは室町時代の石仏であり、1582年、羽柴秀吉が山崎合戦の後、天王山に山崎城を築城した時、石垣の石材等は麓のお寺や道端の石仏等が多用された。城は2年足らずで破却されたが、その後、石材等は散乱したと考えられる。この度、山の整備中に発見され、粗末に扱うことはできず、散乱していた石仏を集め、お堂を建て安置したとのことでした。

場所は、ミツマタロードの途中にあります。皆さんも是非お参り下さい。

(2班 栃尾 勉 記)